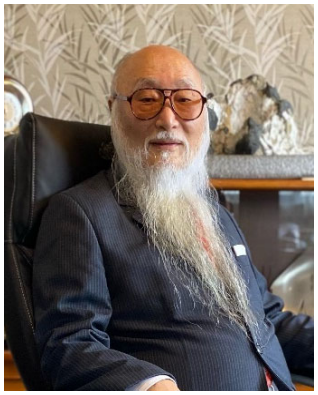
講演・発表等 要旨

2025. 4. 25 版

国際生命情報科学会(*ISLIS*) 創立 30 周年記念行事
ISLIS 主催 第 60 回生命情報科学シンポジウム

開催日: 2025 年 8 月 8-11 日(金-月) 大会長：帯津 良一 *ISLIS* 前会長
開催地: 静岡県 伊豆高原「華水月」はなみずき 借切

〈理事長講演〉



人財と連携の結集を
－ ホリスティック医学・不思議の科学の拠点,
国際生命情報科学会(*ISLIS*)・国際総合研究機構(愛理 *IRI*)・
世界一の「潜在能力科学研究所」・「いやしのビル」へ －

山本 幹男 博士(医学), 博士(工学)
(Mikio YAMAMOTO, *Ph.D., Ph.D.*)
国際生命情報科学会(ISLIS) 理事長・編集委員長,
科学平和文化財団(SPC-F) 理事長, 国際総合研究機構(愛理 IRI) 理事長,
「潜在能力科学研究所」創立責任者, 「いやしのビル」企画委員長 (千葉, 日本)

要旨: 2025 年は 当国際生命情報科学会(*ISLIS*)の創立 30 周年記念年である. その記念行事として,少なくとも,次の 2 回の「ホリスティック(全人的)医学と不思議の科学」を主テーマとする「**生命情報科学シンポジウム**」を *ISLIS* が主催する.**第 59 回**は**河野貴美子現会長**を大会長として ビジョンセンター東京日本橋にて 3 月 29-30 日(土-日)に盛大に有意義に開催された.

第 60 回は**帯津良一前会長**を大会長として,錦鯉が 40 匹も泳いでいる庭園付の大抵宅**伊豆高原「華水月」**はなみずきを借切って,第 17 回の**合宿形式**にて 2025 年 **8 月 8-11 日(金-月)**に開催する. 企画・演題・参加者を募集中. これらに多くの方の講演・発表・セミナー・分科会・ミニシンポ・ワークショップ・実技指導披露等の応募と参加を望む.

ISLIS は, その兄弟組織でこの分野の幾多の研究成果を挙げてきた国際総合研究機構(*NPO-IRI*)/科学平和文化財団(*SPC-F*)・国際総合研究機構(愛理 *IRI*)と共に, 世界一の 愛理 *IRI*-「潜在能力科学研究所」を創設し, 大型「いやしのビル」を建設し, 「ホリスティック(全人的)医学・不思議の科学」を含むこの分野の**世界一の拠点**に育てたい. 企画, 構想, 連携や 2025 年中に **100 名の人財を公募中**で, 良い研究者や多方面の人材の推薦等で皆様のご協力を得たい. このために現本部および総武線「稲毛」駅近辺に数カ所のスペースを既に借増し, 小型ビルの建築確認済証も発行され, 超大型ビルを含む大型ビル 3 棟の企画設計もまとまった. こころが綺麗で有能な各種人財の結集を望んでおり, 自薦・他薦を期待している. また, 大学等や国立系研究機関等との連携を模索しつつある.

ISLIS の設立趣意は, 物質中心の科学技術から, こころや精神を含んだ 21 世紀の科学技術へのパラダイム・シフト (枠組革新) を通じ, 真理の追究と共に, 人間の「**潜在能力**」の開花により, 健康, 福祉, 教育と社会および個人の幸福や心の豊かさを大きく増進させ, 自然と調和した平和な世界創りに寄与する事である.

*ISLIS*は1995年の創立来30年, 現在の科学知識の延長で説明が出来そうも無い不思議なこころや精神を含んだスピリチュアル・ヒーリング, 気功, 潜在能力, 超心理現象などの存在の科学的実証とその原理の解明を追求して来た. この間に生命情報科学シンポジウムを, 海外での開催や17回の合宿形式を含め60回主催し, 英文と和訳付の国際学会誌***Journal of International Society of Life Information Science*** (*J.Intl.Soc.Life Info.Sci.* or ***Journal of ISLIS***)を年2号刊行し, 総計7, 000頁以上の学術論文と発表を掲載してきた.

この間に, 不思議現象の存在の科学的実証には多くの成果を挙げた. しかし, その原理の解明は世界的にもほとんど進んでいない. 今後共, これに大いに挑戦したい.

本学会は現在, 世界の11カ所に情報センターを, 15ヵ国以上に会員を, 擁している.

キーワード: ホリスティック医学, 国際生命情報科学会, *ISLIS*, イスリス, 生命情報科学, 潜在能力科学, 国際総合研究機構, 愛理 *IRI*, アイリ, 科学平和文化財団, *SPC-F*, 科学, 精神, 脳, 心身, 代替医療, CAM, 統合医療, IM, 予防医学, 未病, 精神神経免疫, スピリチュアル, ヒーリング, 気功, ヨーガ, 瞑想, 潜在能力, 催眠, 心, 不思議, パラダイムシフト, 世界像, 世界観, 超常現象, 超心理, 超能力, 平和, 幸福

mikio-yamamoto@iri-g.org Fax 043-255-9143 090-9232-9542 〒263-0043 千葉市稲毛区小仲台2-13-31 Peace

<大会長講演>

（仮題）大ホリスティック医学

帯津 良一　医学博士,医師
国際生命情報科学会（*ISLIS*）副会長
日本ホリスティック医学協会 名誉会長，帯津三敬病院 名誉院長（埼玉,日本）

（仮）**要旨：** 前回の会長講演のなかで、人間一人をまるごと見ているだけではなく、場の階層を成す素粒子から虚空までのすべてを手中に収めて始めてホリスティック医学であると申し上げた。今回はそのホリスティック医学の対象である人間まるごとを時間的に考えてみたのである。まずは医療の本質について考えると、これは患者さんと治療者が寄り添い合うことに尽きる。体で寄り添い、心で寄り添い、命で寄り添うのである。命で寄り添うためには死を命のプロセスの一つと考えるのである。こうして死後の世界の道程が見えて来ることによって始めて命と命が寄り添い合えるのである。

つまり、この世だけではなく、あの世もしっかりと視野のなかに入れてのホリスティック医学なのである。この世にあるうちに死後の世界に期待と展望を以って歩を進めるのが生と死の統合。そしてすべての人が生と死を統合する社会こそホリスティック医学の究極である。

キーワード: 医療の本質,寄り添い合う,命で寄り添そう,死後の世界,生と死の統合,生と死の統合社会

連絡先 ： 帯津 良一 医療法人直心会 帯津三敬病院 名誉理事長 〒350-0021 埼玉県川越市大字大中居 545 番　Tel: 049-235-1981

<常務理事講演>

ピラミッドパワーの科学的研究（2007 年 10 月～2025 年 8 月）
(Scientific Research on Pyramid Power: Studies from October 2007 to August 2025)

髙木 治, 河野 貴美子, 山本 幹男
国際総合研究機構(IRI), 科学平和文化財団(SPC-F)（日本、千葉）

要旨：我々は 2007 年 10 月以来、ピラミッド型構造物(pyramidal structure: PS)の未知なるパワー（ピラミッドパワー）を実証するため、厳密に科学的な実験を続けている。実験ではバイオセンサ（キュウリ切片）を、PS 頂点と頂点から 8m 離れた較正基準点（コントロール）に 30 分間置き、その後バイオセンサを密閉容器に移し、48 時間程度保管した後、容器内に放出された揮発成分（ガス濃度）を測定した。我々が行ったピラミッドパワーの実験は、主に次に示す 2 種類の実験である。I)「ピラミッドパワー実験（PP 実験）」: PP 実験は、PS 自体が潜在的に持っている、いわゆるピラミッドパワーを検出する実験である。II)「瞑想実験」: 瞑想実験は被験者が PS 内に入り瞑想（ヘミシング）を行う実験であり、また瞑想中と比較するため、瞑想前と瞑想後の時間帯でも、PS 頂点にバイオセンサを置いて実験を行った。PP 実験によって実証した内容は、主に次の 5 点である。1) PS のピラミッドパワーの存在を明らかにした（1%有意で実証：夏期データ）。2) PS のピラミッドパワーが、PS 頂点に 2 段に重ねて置いたバイオセンサに対して、下段と上段で異なることを明らかにした（ピラミッド効果の大きさを示すサイ指数Ψが、下段のバイオセンサに対するサイ指数Ψは-3.01 でマイナスの値、上段に対するサイ指数Ψは 5.52 でプラスの値となり、下段と上段で有意差を得た。$p=4.0\times10^{-7}$）。3) PS の潜在力の詳細な解析の結果、バイオセンサ間の絡み合い（Bio-Entanglement）と考えられる現象を明らかにした。4) PS のピラミッドパワーは季節変化をしないこと、また Bio-Entanglement の効果は季節変化をすることを明らかにした。5) PS のピラミッドパワーが、バイオセンサの特性であるガス濃度の概日リズムの位相に影響を与えることを明らかにした。瞑想実験によって実証した内容は、主に次の 4 点である。1)PS 内で被験者が瞑想中と、瞑想後を比較した結果、生体センサに与えるピラミッド効果が異なった($p=3.13\times10\text{-}10$)。2) PS 内で被験者が瞑想した影響は 20 日間程度残り、瞑想後 20 日以降、ピラミッド効果が検出できなくなった。3)PS の有無、瞑想の有無の組合せは 4 通りあり、それぞれ実験を行った。その結果、ピラミッド効果の発生要件が明らかになり、PS 内で被験者が瞑想した時にのみ、ピラミッド効果が有意に検出された。4)瞑想前実験は、被験者が実験室から 6km 以上離れた自宅に居る時に行った。瞑想前日の実験と、瞑想の数時間前の実験を比較した結果、瞑想前日のピラミッド効果は誤差の範囲でゼロとなったが、瞑想数時間前のピラミッド効果は有意な値となった。本発表では、これまでの実験結果の全体を説明す

るとともに、今後の実験予定等も発表する予定である。ピラミッドパワーに関する研究は、未だアカデミズムの世界では異端と見做されることが多い中、我々の実験結果は、この分野において世界初の研究成果である。今後この成果が一般に広く認められ、科学における新たな研究分野となり、幅広い応用の可能性が期待される。

キーワード：ピラミッド、潜在力、瞑想、ヘミシンク、バイオセンサ、キュウリ、ガス、サイ指数、Bio-Entanglement

代表著者連絡先：〒263-0051 千葉市稲毛区園生町 1108-2　ユウキビル 4FA　　電話　043-255-5482　電子メール：takagi@a-iri.org

参考文献
Takagi, O., Sakamoto, M., Yoichi, H., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2020) Scientific Elucidation of Pyramid Power: I. Journal of International Society of Life Information Science, 38, 130-145. https://doi.org/10.18936/islis.38.2_130

<研究発表>

ピラミッド型構造物内の瞑想によって影響された潜在的なピラミッドパワーと Bio-Entanglement

(Potential Pyramid Power and Bio-Entanglement Influenced by Meditation in a Pyramidal Structure)

髙木 治, 河野 貴美子, 山本 幹男
国際総合研究機構(IRI), 科学平和文化財団(SPC-F)（日本、千葉）

要旨：我々はピラミッド型構造物（pyramidal structure: PS）の未知なるパワー（ピラミッドパワー）の研究を、2007 年 10 月から続けている。その結果、バイオセンサ（食用キュウリ切片）を使用した厳密に科学的な実験によって、ピラミッドパワーを実証した。そしてこれまでに、バイオセンサに対する次の 2 種類のピラミッド効果を実証した。(i) PS の潜在力によるピラミッド効果。 (ii) PS 内部での被験者の瞑想によって影響されたピラミッド効果。(i) の解析結果から、バイオセンサ間に、あたかも“絡み合い・もつれ”の様な現象があることが示唆され、我々はこの現象を”Bio-Entanglement”と名付けた。Bio-Entanglement により、それまでピラミッド効果の大きさを示す指標と考えていたサイ指数（Ψ）が、実は PS の潜在力によるピラミッド効果と Bio-Entanglement の効果とが混じりあったものであることが分かった。そのため、我々はサイ指数（Ψ）の表式を、PS の潜在力によるピラミッド効果（サイプライム:Ψ’）と、Bio-Entanglement の効果（サイダブルプライム:Ψ”）とに、表式を分離した。その結果、PS 頂点に 2 段に重ねて置いたバイオセンサで、下段のサイ指数（Ψlayer1）より上段のサイ指数（Ψlayer2）の方が、年間を通じて大きくなる要因が、PS の潜在力によるピラミッド効果（Ψ’）によるものであり、またサイ指数（Ψ）が季節変化をする要因は、Bio-Entanglement の効果（Ψ”） によるものであると結論した。これまでの研究報告は、Ψ’ とΨ” の解析結果は、(i)に関連した、PS 内部の瞑想の影響を除外した実験データを使用して行った。これに対して今回の発表では、我々は(ii)に関連した、PS 内で被験者が瞑想している状態、および瞑想後の実験データを使用して、Ψ’ 及び Ψ” を解析した。その結果、瞑想中及び瞑想後のΨ’ の時間変化は、化学反応の逐次過程（2 段階反応）を示す近似曲線によって、他の関数に比べて最も良く近似できることが判明した。このことから、ピラミッドがエネルギーを変換をする機能を持っているという仮説を説明するために提案したモデル、つまり PS が瞑想エネルギーを吸収、変換、変換されたエネルギーがバイオセンサに影響を与えるというモデルの正当性を確認することができた。またΨ’ の下段（Ψ’Layer1）と上段（Ψ’Layer2）を比較したところ、瞑想中から瞑想後にかけて、Ψ’Layer1 はマイナスの値から徐々にゼロに収束し、Ψ’Layer2 はプラスの値から徐々にゼロに収束するという、ほぼ対称的な変化をすることが判明した。

キーワード：ピラミッド、バイオセンサ、キュウリ、2 段階反応、Bio-Entanglement

代表著者連絡先：〒263-0051 千葉市稲毛区園生町 1108-2　ユウキビル 4FA　　電話　043-255-5482　電子メール：takagi@a-iri.org

参考文献
[1] Takagi, O., Sakamoto, M., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2021) Potential Power of the Pyramidal Structure IV: Discovery of Entanglement Due to Pyramid Effects. Natural Science, 13, 258-272.
https://doi.org/10.4236/ns.2021.137022
[2] Takagi, O., Sakamoto, M., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2021) Potential Power of the Pyramidal Structure V: Seasonal Changes in the Periodicity of Diurnal Variation of Biosensors Caused by Entanglement Due to Pyramid Effects. Natural Science, 13, 523-536.
https://doi.org/10.4236/ns.2021.1312046

<研究発表>

日蓮、ホワイトヘッド、ユング、シェルドレイク…

岡田真一　博士（理学）、臨床心理士

科学平和文化財団 国際総合研究機構（愛理,IRI）（日本, 千葉）

要旨：13c の日蓮遺文（「御義口伝」の冒頭部分）の記述[1)]と 20c 初頭の A.N.Whitehead 中期哲学中の概念（「自然認識の諸原理」[2)]）は,現在改めて振り返ると,時空中に“自立能動で群れを成し出現した安定的な素粒子,原子,分子,結晶,高分子,錯体,生命,恒星,小宇宙…（自己組織化体）”は,同一性回帰志向により物質としての静的・動的形態安定性を確保しつつ,多様性展開志向によって得た新たな”経験・機縁“を,何らかの方法で共有し安定化させ,無意識化・習慣化・自動化・定着化・法則化…させる微妙な 2 志向性の相互作用（これがそもそもの”こころ“の起源か…）を描いた点で,類似していた.

一方,20c 初頭,C.G.Jung は,「共時性」概念の提唱で独自に心身二元論を乗り越え,「心と身体は別々の実体ではなく,全く同一のいのち」[3)]との解釈に到達している.ただ,その一方で,民族,人類…に共通の元型を含む集合無意識がいかに形成されたのかについてはいささか歯切れが悪い.すなわち,果たして個体がそれぞれ経験した事象がどのように共有されていったのか,その機構が当時（現在も）不明であったことが大きいのだろう.

この困難について R.Sheldrake は,その存在形態に時間項（振動）が含まれるものは,その振動の膨大な繰り返しという過去が現在に流れ込み,その存在形態を安定化させるとの仮説を唱えた（だから時空中に大量にある水素原子の姿は,数式表現できるほど安定ととらえる）[4)].しかも,他の動的パターン（新規な分子・結晶形態発生から動物の記憶・思考・行動パターンまで）も繰り返されることで,レベルは異なるものの,より容易に起こるようになり安定化するとする.そのうえで,縁起的（たまたま）に生起した事象も,類似パターンが繰り返され,または繰り返すことでより習慣化・定着化・法則化すると説く.

もしこの仮説が確認されれば,つまりは,日蓮,Whitehead が描写した自己組織化体に働く志向性の一つ（同一性回帰）は,もう一つの志向性（多様性展開）の膨大な繰り返しによる定着化・法則化したイベントとの結論に至る.Jung が突破できなかった集合無意識の形成過程も,このことで理解可能となるだろう.そしてこの姿こそ“こころ”という事象が,多様性展開志向に鋭敏な意識部分と半ば定着しつつある個人的無意識および広大深遠な集合無意識領域…で構成された各階層が,同時に激しく流転していくゆえんであるのかも知れない.

1)植木雅俊, 日蓮の思想-「御義口伝」を読む, 筑摩選書 281,筑摩書房, 2024.

2)森元斎, ホワイトヘッド哲学における生成と主体,年報人間科学. No.31, 1-14, 2010.

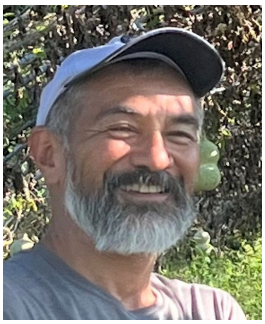
3)桑原晴子, 心と身体の関連性に関する分析心理学的研究の展望, 岡山大学大学院教育学研究科研究集録, No.162, 47-57, 2016.

4)Rupert Sheldrake, Setting science free from materialism, EXPLORE, Vol.9, No.4, 211-218,2013.

キーワード：日蓮,ホワイトヘッド,ユング,シェルドレイク,元型の形成,汎心論

連絡先：Tel:090-6521-7951　E-mail：makuharihamada@gmail.com

＜一般講演＞



(仮題)　Holistic Sync ～ テクノクラシーへの対処方

荒井 紀人

科学平和文化財団　国際総合研究機構(愛理 IRI)　（日本, 千葉）

（仮）**要旨：**世界経済フォーラムは「グローバルリスク報告書」を発表し,2025 年度は国家間の武力紛争や地政学上の対立,誤報と偽情報,異常気象や社会の二極化のリスクが高いと評価した.これらリスクの短期・長期的解決策として,IT＆AI の活用は大前提になっているが,同時にテクノロジー自体が及ぼすリスクも決して無視できない.今後,ナノ・バイオ・神経・デジタル技術が融合し,物のインターネット（IoT）から身体のインターネット（IoB）へと進むことは既定路線であり,トランスヒューマニズムが

進化のベクトルを指し示すだろう.人間よりも AI による価値判断や意思決定が重んじられることが,我々にとってどんなインパクトを持つのかは未知数だ.
グローバル裕福層が推進する,デモクラシーに代わるテクノクラシーのアジェンダの社会的な実装によって,失業や不平等,貧富の二極化,人権・自由の侵害,検閲と監視,健康被害や環境悪化などのリスクが高まることが,世界中の市民から懸念されている.官民複合体のテクノクラートが,マクロ～ミクロに自然環境,社会,個人,身体,物質までをトータルに制御・支配するために,通信技術や社会工学においてグローバルなシンクロを用いることは,その方法の核心部である.そこで,グローバル・シンクを多角的に分析し,特にその,時間論的な特性と限界を明らかにすると共に,テクノクラシー/トランス・ヒューマニズを超える突破口となるコンセプトとして,「ホリスティックなシンクロ」を新たに提示しつつ,より平和的なネクスト文明開花のためのホリスティックな対処方を探る..

キーワード：物のインターネット（IoT）, 身体のインターネット（IoB）, テクノクラシー, トランスヒューマニズム, グローバルなシンクロ, ホリスティックなシンクロ

荒井 紀人： 科学平和文化財団 国際総合研究機構(愛理 IRI)

＜ミニシンポジウム 「起源」を考えるシリーズ＞

（仮題）「こころ」の起源について考える ―それぞれの視点から―

ファシリテーター **岡田真一** 博士(理学)、臨床心理士

科学平和文化財団 国際総合研究機構（愛理, IRI ）（日本, 千葉）

（仮）**要旨：**「こころ」はどこから来たのでしょうか。人や動物にのみ存在するのでしょうか。死とともに失われるのでしょうか。または生死を超えて続くのでしょうか。物質や物質の動きとは別次元の「ものごと」なのでしょうか。あるいは「からだ」の物理・化学的な運動・反応に伴う付随物・副産物に過ぎないのでしょうか。現実社会を観ると、21世紀も四半世紀が過ぎようとする今ですら、戦火はむしろ拡大し、物質主義・新自由主義の嵐が各国で吹き荒れ、殺伐としたムードが人々の気持ちを席巻しているようです。だからこそ「こころ」の行く末を観じるためにも、一度原点に立ち還る必要があるのではと考え、企画いたしました。

本ミニシンポジウムでは、各々のパネリストにそれぞれの視点から、とてもではないが語り尽くせることではないと承知しつつ、敢えて手短にその見解を語っていただく予定です。パネリスト講演後の総合討論では、ご参加の皆様の熱いご意見・ご討議をお待ち申し上げております。

キーワード：こころの起源、からだとこころ、意識と無意識、ものとこと、魂と魄

連絡先：Tel:090-6521-7951 E-mail：makuharihamada@gmail.com

＜ミニシンポジウム＞

「地球幸福憲章」

ファシリテーター **山本 幹男** 博士(医学)・博士(工学)

「地球幸福憲章」起草者代表（日本, 千葉）

要旨： 「**地球幸福憲章**」は、場当たり的な政策でなく, 無宗教の人も宗教を信じる人も含めて, 皆の数千年間の指針となるべき, 地球上が丸ごと皆が平和で幸福になるべき憲章を目指して, 2012 年に山本幹男が草案を提起し, 2 年掛で数十人が参加しての 50 回程の議論を経て起草された。その後, **ちばてつや** 漫画家(2025 念に文化勲章受章) や 故 **日野原重明** 医師等 高名な方々に「提唱者」や「賛同者」となって頂き、2014 年 9 月 9 日に神田の日本学士会館にて創立総会を開催し, 記者会見し発表した. その後、人材や資金不足等で、この普及推進活動が出来ていなかった.

しかし, 戦争が多発している今こそ, 本憲章が必要で 平和への関心が高まっているので, これを再開しなければならないので, 是非とも多くの方々に, この運動にご参加頂きたい.

キーワード：地球幸福憲章, 幸福文明, 精神文明, 生き甲斐, 平和, 戦争, 幸福, 自由, 平等, 博愛, 民主, 環境

連絡法：mikio-yamamoto@iri-g.org Fax 043-255-9143 090-9232-9542

コメンテーター： 募集中
鈴木 洋美
荒井 紀人　科学平和文化財団　国際総合研究機構 (愛理 *IRI*)

全世界の、ヒューマニスト、ロマンチスト、アイディアリスト（理想主義者）、
エコロジスト、リベラリスト、パシフィスト(平和主義者)
全員集合　「地球幸福憲章 **net**」へ

2014 年 9 月 9 日発表版
起草者代表　**山本 幹男** 博士(医学)・博士(工学)

地球幸福憲章

The Earth Happiness Charter　(TEHC)　テーク

ー 人類はきょうだい、生物は家族、地球・宇宙は家 ー
-Humanity as Brothers and Sisters, All Living Creatures as One Family, the Earth and Universe as Home-

今日までの目覚ましい科学技術の進歩と資本主義経済システムにより、今まさに物質文明が開花している。それは、人々の生活を快適にする一方で、核兵器に象徴されるように人類絶滅の危機さえもたらした。更に、地球規模の自然破壊や貧富格差を引き起こし、資源や覇権をめぐる紛争も絶えない。

本憲章は、繁栄の陰に生じた弊害や危機を乗り越え、人類と生物や地球・宇宙の永続的で輝かしい未来を創るために、**物質文明と精神文明を統合**し、「**人類は兄弟、生物は家族、地球・宇宙は家**」との根本理念に基づく「**地球幸福文明**」への転換をここに提唱する。

目指す「**地球幸福文明**」は、今日までの文明の貴重な概念である、**自由・民主・平等・博愛・連帯・参画・福祉・健康・平和・自然保護・共生**を成熟させ現実化する。また、**個性が生かされ、生き甲斐と愛・喜びに満ち、生き生きと生きられる、皆が社会・生物・自然と共に 幸福に生きる事**を主眼とした文明である。

人種、民族、宗教、国家の垣根を超え、世界の人々による**連帯と多様な価値観**への理解に基づく、あらゆる外交、経済、文化的努力により平和を実現する。核兵器・生物化学兵器などの速やかな全面禁止、通常兵器の段階的削減、そして廃棄を目指す。

経済システムは、弱肉強食・収奪と浪費型から、**民主的で公正なシステムに転換**する。福祉・健康・文化・環境・共生・平和・精神性を重視した経済活動を促進する。

この文明の実現のためには、一人一人が、全ては全体と相互に繋がり合う、掛け替えのない存在である事に気付き、先人の叡智に学び、潜在能力を開き、他への思いやりの心を深めると共に、分かち合う行為が必要である。

本憲章に賛同する世界の人々による「**地球幸福憲章ネットワーク**」とその「**世界本部**」をここに創設し、これを皆の力で発展させることにより、**本憲章**と「**地球幸福文明**」の実現をめざす。このために、世界の多くの人々・団体と叡智の本「**地球幸福憲章ネットワーク**」への結集を求める。

＜一般講演＞

食と農から始まる「やさしい平和」のカタチ
― 創造還元・自然還元・絆の還元という新しい仕組みの提案 ―

伊藤 淳
科学平和文化財団　国際総合研究機構(愛理 IRI)　（日本, 千葉）

要旨：私たちは今,自然との距離が広がり,人とのつながりが希薄になり,地域の豊かさが見えにくくなっている時代を生きています.こうした中で,「本当の平和とは何だろう？」と考えたとき,それは単に争いがない状態ではなく,人と人,人と自然が丁寧につながり合いながら,安心して暮らせる日々の積み重ねなのではないか -そんな視点から今回の提案を考えました.　本発表では,私の実体験の食と農を起点に,地域や自然との関係性をもう一度耕しなおすための新しい報酬の仕組みとして,「創造還元」「自然還元」「絆の還元」の 3 つを提案します.

・**創造還元　クリエイティブリターン**は,自然栽培の体験,地元の食材を使った料理ワークショップ,新しいメニューづくりなど,地域の発酵食品や食文化を守り育てる活動や空き家のリノベ,アーティスト活動などを応援する仕組みです.
・**自然還元　ナチュラルリターン**は,無農薬栽培や環境に配慮した暮らし方,食品ロスを減らす工夫,歩いて通勤,ごみ拾いなど.自然と調和した行動に光を当てます.
・**絆の還元　ボンドリターン**は,地域のお祭りや農家さんとの交流,お家のかたづけ,お困り事のボランティアなど,人と人のつながりを深める行動を支えます.
これらの活動に対しては,地域通貨やポイント,環境クレジットなどで「ありがとう」の気持ちを形にし,地域の経済や信頼を育む流れをつくっていきます.また,AI やブロックチェーンなどの技術も活用し,活動の見える化や公平性を保つ工夫も提案したいと思います.　この取り組みは,誰もが自分なりの「豊かさ」を感じられる社会を目指すものであり,争いではなく共感や対話によって成り立つ,優しくて力強い“平和の土壌”を耕していくための一歩です.

キーワード：豊かな仕事, 食と農の再創造,つながりを耕す,自然に寄り添う暮らし,地域とともに,未来への種まき,ありがとうの循環,土と生きる,みんなで育てるまち,平和を育てる日々,自然,生活の質,QOL,楽しい仕事,おいしい食,家族,自然栽培,オーガニックライフ,平和,自給自足,健康,地域再生,土,AI,コミュニティ,資源,人間力,調和,環境問題,ゴミ屋敷,不用品,アレルギー,音楽,アーティスト

伊藤 淳：junitojunito77@gmail.com

＜一般講演＞

理学療法士としての 18 年

芳賀 ゆかり

科学平和文化財団　国際総合研究機構(愛理 IRI)　（日本, 千葉）

要旨：リハビリテーションという言葉は医療現場だけでなく,日常生活の中でも広く認知されるようになりました.リハビリテーションと聞くと,一般的には障害により低下した身体機能の回復ということに焦点があたると思います.しかし本来,リハビリテーションという言葉は身体機能の回復だけに対して使われるのではなく「人間らしく生きる権利の回復」や「自分らしくいきること」につながるすべての活動に対してリハビリテーションという言葉が使われます.今回のシンポジウムでは,私が理学療法士として急性期病院,回復期病院,在宅医療と一連の医療現場を経験した中で感じた医療制度の光と闇,理学療法士が担う役割の重要性,リハビリテーションの可能性を中心にお伝えできればと思っております.

キーワード：リハビリテーション,医療制度,機能回復,在宅復帰,社会復帰,QOL

芳賀ゆかり：yukari-haga@iri-g.org

＜講演＞

(仮題) ワンネスの時代–科学・医学・文化・社会におけるつながりと統合の意識

叶 礼美

非営利型一般社団法人 国際生命意識協会 代表理事

カリフォルニア州政府認可スクール・オブ・スピリチュアリズム ワンネスインスティテュート 代表

（仮）**要旨：**「ワンネス–生きとし生けるものはつながり, ひとつの生命であり, 互いに影響を及ぼしあって存在している」という概念は, 医学, 科学, 文化, 社会など多方面で受け入れられつつあります. 医学の分野では, 瞑想や共感が「つながりと愛情のホルモン」として知られるオキシトシンの分泌を促し, 人類の調和やワンネスの実現に貢献することが示された英論文（高橋徳・叶）が掲載されました. これは, 社会のさまざまな領域で問題となっている分離や分断をつなぎ直す概念として, ワンネスの思想が科学的にも検証されはじめた証といえるのではないでしょうか. また, 霊性やエネルギーといった概念も言及されており, それらが健康や社会の在り方に望ましい影響を与える可能性を示唆しています.　量子力学においても,「量子もつれ」や「ホログラフィック宇宙論」が, 宇宙のすべてがつながっていることの理論的な裏付けを提供しています. さらに, 古代から続く文化や宗教においても, ワンネスの思想が見られます. 仏教

の「縁起」, 神道の「八百万の神」, スーフィズムの「神との合一」などは, 個々の存在が全体とつながっていることを示唆しています. また, 古代文明や原始宗教においても, 自然を大いなる理（ことわり）として崇敬し, 生命のつながりを大切にする思想が根付いていました.
前回の講演では 「現代の処方箋―スピリチュアリティとワンネス思想」 をテーマとしましたが, 今回は「ワンネス」の原理と, 生命を第一とする価値観が人々の意識変容を促し, 選択や行動が変化することで, 医学, 科学, 文化, 経済, 政治, 社会に変化をもたらす可能性について探ります. こうした意識的な取り組みが, 地球文明の本来的な生命の回復と調和的な成長・進化へとつながるのではないでしょうか. 本講演では, 「ワンネスが示す未来の可能性」 について, 多角的に考察していきます.
キーワード：

連絡法: 国際生命意識協会　office@lifeconsciousness.org

＜ワークショップ＞

(仮題)シンギングボウルの共鳴現象・人と場のワンネスを考える

佐藤　克巳
佐藤整体院長（日本, 千葉）

（仮）**要旨**：ワンネスは, 全てが繋がり一つであるという概念である. 全ての存在は関わり合い, 互いに影響を与え合っているとされる. 古来より, 心と体, 自然, 宇宙との一体感を得るために, ヨガや瞑想などの様々な試みが行われてきた.
エネルギー療法師としての経験を通じて, 体のワンネス的側面を考察する. 今回のシンポジウムでは, ハンドスピナーやシンギングボウルといった身近な物質を用いて検証を行う. これにより, ワンネスや波動の本質について考察し, 参加者に新たな視点を提供することを目的とする.
キーワード: ワンネス, 共鳴現象, シンギングボウル, エネルギー療法, 波動

連絡先：佐藤 克巳　e7878n@gmail.com

＜学会 FES Vol.1 「癒しの響き 至福の時」＞

ペヨーテ・ミュージック～癒しのシンクロ・サウンド
―唄と演奏・ライブ・トーク―

荒井 紀人, 伊藤 淳
科学平和文化財団 （SPC-F）（日本,千葉）

要旨: ネイティブ・アメリカン・チャーチ（NAC）のメンバーは全米で 30 万人いると言われているが、NAC の存在も、そのセレモニーで用いられるペヨーテ音楽も、日本で紹介されたことがほとんどない。日本人でありながら、1987 年に NAC（サウスダコタ支部）のメンバーになった荒井紀人は、以来、ペヨーテソングを唄い続けており、今回は、荒井紀人（ペヨーテ・ソング＆瓢箪ラトル）と伊藤淳（ウォーター・ドラム）の二人でペヨーテ音楽の紹介と演奏を行う。
ペヨーテ音楽の特徴は、まず、極めて高い各パート（唄とラトルとウォーター・ドラム）の律動のシンクロ性の高さにある。その響きは、独特の時間を生み出し、聴く人を日常の時間とは違う変性意識状態に誘う。さらに、マントラ的なペヨーテソングのリフレイン、ひょうたんラトルから出力する豊かな倍音、さらに、ドラムの中に水を入れて、水を振動させて音を出力するウォーター・ドラムの倍音の響きには、癒しをもたらす効果がある。特に、セレモニーにおいては、共に声を出し、音を奏でることによって、即興的なユニゾンを生み出し、全体のハーモニー感が高まることによって、大きな癒しの効果が生まれる。
キーワード: ネイティブ・アメリカン・チャーチ/ペヨーテ・ソング/ウォーター・ドラム/ひょうたんラトル